

特集 交通事故ゼロで年末・年始を楽しく過ごすために

飲酒運転根絶強化月間 12月1日～31日

年末の交通事故防止運動 12月11日～20日

「乗る人に 飲ませるあなたも 犯罪者」

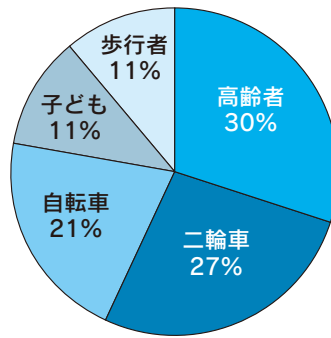
「無事故で年末 笑顔で新年」

年末年始は交通量の増加とともに、飲酒の機会が増えることから交通事故が多発しています。町民一人ひとりが、交通ルールを守り、交通マナーの向上に取り組むことで、悲惨な交通事故防止と飲酒運転を根絶しましょう。

◎問い合わせ 町民課 ☎内線237

交通事故の半数以上は
お年寄りと二輪車です

大磯町における交通事故は昨年と比較すると発生件数は減っているものの、高齢者の事故が約30%、自転車を含めた二輪車の事故は約50%と全体の約80%を占めています。



交通事故発生状況(町内)

高齢者の死亡事故のうち、約7割は歩行中に、そのうちの約8割は自宅付近で起きています。高齢者の方は自宅周辺で行動することが多くなるとともに、身体機能の低下から、道路の横断に時間が掛かることもありま。高齢者に運転者が気づかないこともあるため、不安を感じたら道路を渡らないようにしましょう。

二輪車は車体が小さいため、ドライバーからの発見が遅れたり、車両の死角に入り込む恐れがあるため、交差点進入時には注意が必要です。

自転車の事故も多発していま

す。自転車を運転する人のマナー違反が問われています。運転マナーの向上と交通ルールを遵守しましょう。

一杯のアルコールが
みんなの涙に変わる！

飲酒運転は、悲惨な交通事故を引き起こす危険性が高いにもかかわらず、依然として後を絶ちません。昨年県内では15人の方が飲酒運転事故により尊い命を失っています。

たとえ自分が運転しなくても、飲酒運転を容認したり、飲酒運転を知りながら車を貸したり、同乗したり、お酒を提供すると処罰の対象になります。



アルコールは少量でも脳の機能が麻痺して安全運転に必要な判断力、注意力などを低下させ、死亡事故を含む重大事故に結びつく恐れが多くなります。

「ちょっとだけだから」、「すぐそこまでだから」と軽い気持ちで運転することは、仕事や社会的地位を失い、家庭崩壊につながりかねません。家庭、職場、地域で飲酒運転を根絶しましょう。

ハンドルキーパー運動
知っていますか？

「ハンドルキーパー運動」とは、「自動車で仲間と飲食店などに行く場合、仲間同士や飲食店の協力を得て飲まない人(ハンドルキーパー)を決め、その人は飲酒せず、仲間を安全に自宅まで送り届ける。」という運動です。

職場や地域での飲酒の機会が増えるこれからの季節、どうしても車で飲酒の場所に行くときには「ハンドルキーパーを決め、飲酒運転を撲滅しましょう。」



大磯警察署に白バイが配備

「白バイ Coming Oiso セレモニー開催」

白バイ1台が、大磯警察署に配備され、交通事故防止対策がより推進されることになりました。

大磯署への配備は初めてのことで、10月24日(水)に「白バイ Coming Oiso セレモニー」が開催されました。

当日は、約500人の観衆が集まる中、白バイによるスピード感に溢れ、運転テクニックが光る実演走行が実施され、県警音楽隊の演奏やカラーガード隊のドリル演技が式典に華やかな色を添えました。



▲白バイによる実演走行

夜間街頭見守り活動を実施します

年末の交通事故防止運動期間中の10日間、交通事故防止運動が展開され、国道1号三沢橋信号交差点において、交通安全協会、母の会、交通指導員らによる通行者・通行車両に対する夜間街頭見守り等を実施します。

交通事故防止のため、次のことに気をつけましょう。

- 早めのライトオン！
- 夜間は明るい服装で外出しよう！
- 交通ルールを守り明るい年末年始を過ごしましょう。